

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/30-2/6	2/6-2/13	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.020
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.013
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.029
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.018
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.033	0.021
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.033	0.024
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.049	0.024
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.038

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/30-2/6	2/6-2/13	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.012
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.012	0.019

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第103回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2018年1月30日~2019年2月13日)

第103回目の大気浮遊じんの放射能測定が終わりました。今回も、セシウム137濃度が平均0.027mBq/m<sup>3</sup>と通常時の大気浮遊じんに含まれる放射線量より桁違いに小さい値で健康影響を心配することはありません。ところでセシウム137からは、どんな放射線が出るのでしょうか？万物を作っている原子は、陽子、中性子および電子がエネルギーで結合してできています。この結合が不安定な場合、安定になるためにこれらが飛び出します。この飛び出した粒子やエネルギーが放射線で、陽子が飛び出れば陽子線、中性子なら中性子線、電子ならベータ線、そしてエネルギーならガンマ線あるいはX線と呼ばれます。セシウム137の場合、ベータ線とガンマ線を放出しバリウム138に変化します。